

「地方病流行終息宣言」から25年

—めつ—

滅



『翻訳断毒論』甲州文庫
文化8(1811)に、橋本伯寿が
「甲斐の中郡は水腫多く」と記
述した医学書
【山梨県立博物館蔵】



『甲陽軍鑑』甲州文庫
近世初頭に成立した兵書で、品
第57に、武田家臣の地方病の
症状とされる記述がある
【山梨県立博物館蔵】

「医箴 ヒポクラテスの誓」
医師仲間に配布した書
【昭和町風土伝承館杉浦醫院蔵】



医学を通じて人間道を強く正しく進むことだ

小野 徹

小野徹(1875-1971)は、明治32(1899)年に鏡中条村(現南アルプス市)で医院を開業する傍ら、当時蔓延していた日本住血吸虫病(地方病)の臨床医療と原因究明に努めました。また、山梨県の地方病対策の中心的役割を担い、県関係機関への協力やはたらきかけにより、県の地方病撲滅事業は重点施策として推進に至り、さらに、日本住血吸虫の中間宿主である宮入貝の駆除のため、政府・国会を動かし寄生虫予防法の改正を図り、用水路のコンクリート化などの施策を促進しました。県の保健衛生や学校保健の向上にも貢献し山梨県医師会長、山梨地方病撲滅協力会初代会長などの要職を歴任しました。昭和24(1949)年、鏡中条村長に当選し、昭和41(1966)年に若草町名誉町民となりました。

ぜひ、地方病のために尽力した徹の功績をご覧ください。



昭和4(1929)年の火災で、焼け残った東京慈恵医院医学学校の卒業証書
【個人蔵】

「洗心堂」表札
【個人蔵】



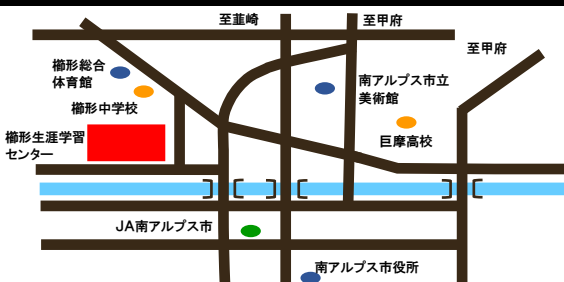
洗心堂医院に保管されていた、宮入貝が入っている薬瓶と、地方病の治療薬ステプナールの箱
【個人蔵】



「徹の晩年の書「節」」
【個人蔵】

* 図書館内の「ふるさと室」には、ふるさと人物室に関連した資料のコーナーもありますので、併せてご覧ください。

南アルプス市 ふるさと人物室



開館時間 平日・土・日 午前9時30分から午後5時まで

休館日 4/30 5/6・28 6/21~30 7/30 8/10・31

住所 山梨県南アルプス市小笠原1060-1(櫛形生涯学習センター内)

問い合わせ 南アルプス市立中央図書館(代表055-280-3300)

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、臨時休館する場合があります。

予めご了承ください。ご来館前に電話等でお問い合わせください。

